

かけはし

中国残留日本人支援団体 尼崎日本語教室

コスモスの会だより
第19号 2020.11.10

編集発行：コスモスの会広報部 〒661-0953 尼崎市東園田町4丁目152-16 TEL: 06-6493-5563
コスモスの会ホームページ・URL=http://kosumosunokai.sakura.ne.jp/index.html FAX: 06-6493-0817

また、ボランティアに携わるきっかけとなった熱意を改めて思い起こし、「日本語を教える立場」として何が必要かを再確認した。日本語を教える三つの神器である「教科書、辞書、参考書、そして仲間」をいかに駆使して授業に臨むかがカギとなるようだ。

日本語を教えるということ

第2回目は9月15日に開催した。

初めに、学習者が求めている学習目的・目標が何かを一緒に考え、学習者に関する資料を作成し、学習計画を立てることが重要である。

そして教えるための準備としては、「日本語文法の勉強」と「教える内容の教案作り」が必要になる。

実際の授業では「わかる」日本語で話すこと、学習者の発話をメインにすることや音読を大切にすることなどを意識する。

学習終了後はその日のうちに「振り返り」と「教えた内容の整理と保管、継続のための準備」を行う。

これらすべては、私たち

感染予防対策で教室再開

10月6日、日本語教室の授業を再開した。3か月ぶりの再会に、学習者もスタッフも皆、満面の笑みを隠し切れなかった。

今年2月、新型コロナウイルスの感染拡大が大きく報じられるようになり、中国との交流の多い学習者たちのことが気がかりになっていった。その時点では、とにかく感染対策をして、3月末に予定している「学習発表会」を乗り切ろうと、消毒液とマスクを買いに走った。ほとんどの店舗ですでにマスクが入手できな



梅グループの授業

い状態になっていたが、何とかかき集めて教室を続けられた。

3月から公立学校の一斉休校が始まり、教室施設が閉鎖されたため、日本語教室も休むことを余儀なくされた。学習発表会も中止となった。「もしかして4月に再開できれば遅れてでも発表会を開催できるかもしれない」という淡い希望も、実現には至らなかった。

緊急事態宣言解除後の6月23日によりややく教室を再開したが、その後再び感染が広がりがり3回開催した後は再度の休講となった。

夏が過ぎ、少しずつコロナへの対応が分かってきた。できうる限りの感染予防対策を講じながらの教室再開を決定し、10月6日を迎えた。当日、学習者たちは皆来るだろうかと不安に思っていたが、多くの学習者がこの日を待っていたように嬉しそうな表情で教室へ入ってきた。みんなが集まり大きな声で再会を喜び合うことはできなかったが、皆それぞれの教室に分かれ、静かに学習を開始した。

(宗景正)

第6回中国残留日本人への理解を深める集いの紹介

★宮島満子さんの手記朗読「かけはし」14号の「みちのり」欄でも紹介している宮島さんは、中国から帰国後1995年に働きながら夜間中学に通い始めました。その頃、教師の勧めで手記を書き始めました。夜間高校を卒業後、中国残留孤児裁判官訴訟に加わり、通訳としても活躍しました。そして06年12月1日、神戸地裁の勝訴判決の日を迎えました。この手記はこの日まで書き綴った宮島さんの半生の記録です。

朗読は視覚障害者のための音訳支援をされているグ



動画「て形」の練習、授業担当は三好明子さん

スタッフ研修会を開催

今年度は尼崎市国際交流協会(AIC)の藤原京子先生をお迎えし、日本語文法の知識だけでなく、実際に授業を行う際の準備の仕方や教科書の使い方など、実践に即した内容で指導いただいている。



藤原京子先生の講義

外国語としての日本語を学ぶ

第1回目は6月30日に開催した。

日ごろ私たち日本人が何気なく使っている日本語は言語学的に見て非常に難しい言語であるらしい。このことを念頭に置き、私たち自身が学習者の立場になって、「外国語としての日本語を学ぶ」必要がある。

また、ボランティアに携わるきっかけとなった熱意を改めて思い起こし、「日本語を教える立場」として何が必要かを再確認した。日本語を教える三つの神器である「教科書、辞書、参考書、そして仲間」をいかに駆使して授業に臨むかがカギとなるようだ。

日本語を教えるということ

第2回目は9月15日に開催した。

初めに、学習者が求めている学習目的・目標が何かを一緒に考え、学習者に関する資料を作成し、学習計画を立てることが重要である。

そして教えるための準備としては、「日本語文法の勉強」と「教える内容の教案作り」が必要になる。

実際の授業では「わかる」日本語で話すこと、学習者の発話をメインにすることや音読を大切にすることなどを意識する。

学習終了後はその日のうちに「振り返り」と「教えた内容の整理と保管、継続のための準備」を行う。

これらすべては、私たち

【藤原京子先生の紹介】

1999年、ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座420時間を修了され、これまでにヒューマンアカデミー日本語学校大阪校 非常勤講師、ダイワアカデミー日本語学校の専任講師等を歴任され、外国人留学生の進路指導、検定等の受験対策、教材開発に携われ、またオンライン授業のカリキュラムを担当されてきました。

2011年より大学や、地域の日本語学校で「日本語の教え方」講座を実施。また2008年からは中国やベトナムの大学等、海外現地で日本語教育にあたられ、2019年7月に尼崎市国際交流協会理事就任。2020年度からは文化庁地域日本語教育コーディネーターとして活躍されています。



自身に「好奇心と探求心」、「準備と確認」、そして「勉強」が求められることを痛感した。

反復練習に利用できるカードの使い方も教えていただき、実践に繋がる大きな参考となった。

教案作りから振り返りまで第3回目は10月20日に開催した。

授業を進めるために必要な「教案」について学んだ。「教案」とは何か? 「教案」はどのように作るのか? 「教案」に基づいてどのように実際に授業をするのか? など、時折実演をまじえて詳細に教えていただいた。教える側にも、事前準備のための努力が必要であることが分かった。

を改めて認識させられた。

また、授業終了後はその日のうちに振り返りをし、学習者が理解できたかを確認することも重要であることが分かった。

編集後記

コロナ禍のため、コスモスの会の活動も休止状態が続き、「かけはし」の発行も危ぶまれていましたが、なんと19号をお届けすることができました。

次回12月15日の予定。これまでの研修をふまえ、準備を実際にどう授業に生かすかについて、私たちが学習者となり先生の模範授業を受ける。絵カードの使い方、文型などの説明の仕方、教えるポイント、例文、時間配分等、先生のやり方を自分自身に取り入れるように、意識をもって研修に参加したい。

また、是非とも模範授業に挑戦し、日ごろの学習に役立てていきたい。

第9回総会開催

2020年度コスモスの会総会は、コロナ感染拡大のため開催を中止し、会員の皆さんへの資料送付をしました。

第6回 中国残留日本人への理解を深める集い

「中国残留日本人の歩んできた道」

と き: 2020年11月28日(土) 午後1時~4時半

と ころ: 尼崎市立中央生涯学習プラザ 1 階大ホール

入場無料 会場内は立席を設けて座席を配置します

マスコットも登場します

第1部

朗読: 宮島満子さんの手記

「八人の家族を満州で失って」

出演: 朗読グループ「ま・どんな」の皆さん

宮島満子さんの紹介

第2部

音楽のひととき

朗読: 「親たちの人生を語る」

出演: 2世、3世の皆さん

写真展「ソ満国境に入植した開拓団」

写真: 宗景正

1 階ロビー 期間: 11月25日(木)~26日(土)

午前9時~午後9時、26日は午後5時まで

主催: 尼崎市(委託事業団体: コスモスの会尼崎日本語教室)

後援: 尼崎市教育委員会

協賛: 近畿中国残留者支援・交流センター

大塚中国残留者センター

問合せ先: コスモスの会 右打部 (090-7489-7091)

HP: http://kosumosunokai.sakura.ne.jp/kosumosa.html

ループ「ま・どんな」の皆さん

★今回のテーマの背景満州開拓団について 宗景正

★音楽のひととき

★クラシックピアノ/曲 演奏は安達さおりさん

★「親たちの人生を語る」

敗戦後、多くの日本人が旧満州に悲惨な状態で残されました。第一次、第二次の引揚で、大半の人は日本に引き揚げましたが、家族を失った女性や子供は中国に残され、中国人の家庭で生き延びました。当時の性別や年齢、地域、中国人家庭の違いなどの要因により、中国残留日本人の人生も様々です。今回は5人の二世、三世の方が歴史に翻弄

された父や母たちの人生をどのように感じているのか様々な思いを語っていただく予定です。

★ロビー展示「ソ満国境に入植した開拓団」

31年満州事変を起し、武力で満州を占領した関東軍は次のソ連との戦争のため国境周辺に要塞を築いていきました。そのために国境近くまで鉄道を敷き、その周辺には日本人開拓団を入植させました。それは国境の守りを固めるためでした。今回は宮島満子さんの家族が加わった開拓団が入植した国境地帯、東安省の開拓団と国境の戦争遺跡を紹介いたします。

(宗景正)